

営農情報（水稻）

令和8年8月4日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

1 生育状況（7月27日現在）

今年度の田植えは、6月15日頃から始まり、20～21日を中心に進み、7月5日頃に完了しました。6月末の大雨により一部ほ場で冠水がみられましたが、現時点で概ね生育は順調です。また、分けつが旺盛な傾向がみられています。

後述しますが今年度はカメムシ類、ウンカ類およびコブノメイガの多発が懸念されます。さらに発生パターンによると、8月10～15日にウンカ類およびコブノメイガの次世代幼虫が発生する予測がされています。

今年度も必ず適期の防除徹底をよろしくお願いいたします。

◇指標田の生育調査データ（2026年7月27日調査）

地域	品種	移植（播種）日	草丈	茎数（1株当たり）
A	ヒノヒカリ	6/20	58 cm	27 本
	元気つくし	6/20	69 cm	23 本
B	ヒノヒカリ	6/26	46 cm	14 本
	元気つくし（乾直）	5/30	55 cm	—
	つやおとめ	6/19	54 cm	28 本

2 水管理

（1）中干し以降の水管理

中干し後は、根の活力を維持するため、間断かん水を行います。ただし、穂ばらみ～穂揃期にかけては、最も水が必要な時期のため浅水管理します。**特に、出穂の前後1週間は水を切らさないようにします（花水）。**中干しは出穂20日前までに終わりましょう。

なお、**高温時に水分ストレスが加わると未熟粒が増加し、特に出穂期以降は顕著**になります。高温障害回避のためには、適正な水管理で、根の機能低下を防ぐことも重要です。

（2）台風など強風時

風雨による葉の裂傷が心配されるため、深水にして稲体を守ります。なお、台風通過後の4～5日間は、水分の蒸散が激しいため、深水を保ち続けましょう。

3 穂肥

葉色が低下した状態で高温が続くと白未熟が発生しやすくなります。肥料切れが見られる場合には、穂肥を増肥します。ただし、過剰施肥は稲体の軟弱化を招き、病害虫の多発生や収量・品質低下の要因となるため、生育状況に応じて調整しましょう。

品種	出穂期 6月21日植の場合の目安	穂肥【NK7号】 /10a		
		1回目 （出穂20～18日前）	2回目 （1回目の7～10日後）	
元気つくし	8/17ごろ	7/31ごろ	15kg	10kg
ヒノヒカリ	8/25ごろ	8/7ごろ	20kg	—
ツクシホマレ	8/30ごろ	8/12ごろ	25kg	20kg

※基肥一発施肥体系で幼穂形成期ごろに肥料切れが見られる場合には、出穂前10日ごろまでに硫酸で5～10kg/10a程度施用する

（裏面に続く）

4 病害虫防除

前年度同様、今年度もカメムシ類(ミナミアオカメムシ等)の多発が懸念されます。カメムシ類が多くなると、斑点米のリスクが上昇し、品質および収量が低下します。

また、中国本土においてウンカ類およびコブノメイガが多発傾向にあり、それに準じて日本でも多発が懸念されます。さらに発生パターンによると、8月10～15日にウンカ類およびコブノメイガの次世代幼虫が発生する予測がされています。

今年度も必ず適期の防除徹底をよろしくお願いいたします。

【基本防除①】（8月10～15日）			対象 病害虫
粉 剤	オーケストラロムダンモンカット粉剤DL 3～4kg/10a		紋枯病 ウンカ類幼虫 コブノメイガ
液 剤	オーケストラロムダンモンカットエアー スタークル顆粒水溶剤 1000倍 2000倍		紋枯病 ウンカ類 コブノメイガ カメムシ類

【基本防除②】（8月下旬：出穂期ごろ）			対象 病害虫
粉 剤	トライトレボン粉剤DL 4kg/10a		いもち病 ウンカ類 カメムシ類
液 剤	ブラシンフロアブル トレボンEW 1000倍 1000倍		

【補正防除】（9月上旬：出穂10日後）			対象 病害虫
粉 剤	スタークル粉剤DL 3kg/10a		ウンカ類 カメムシ類
液 剤	スタークル顆粒水溶剤 ウンカ類 3000倍 カメムシ類 2000倍		
粒 剤	スタークル豆つぶ ウンカ類 250～500g/10a カメムシ類 250g/10a		

※特にカメムシについて、出穂2週間前までの畦畔除草の徹底で発生源を無くすとともに、広域一斉防除することで防除効果を高めましょう。

※防除の際は、湛水することで、薬剤の防除効果が安定します。

!!重要!! カメムシ類について、真夏の暑い時間帯はイネの株元に潜って発見しづらいため、気温の低い早朝や夕方に水田の見回りをして早期発見に努めましょう

☆農作業時の熱中症に注意しましょう!!

●日中の気温の高い時間を避け、涼しい時間帯に作業 ●こまめな休息と水分補給

【農薬の安全使用上の注意】①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認! ②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底! ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄! ④防除履歴の正確な記帳!